

地域防災の要

消防団

消防団ってどんな団体？

消防団（ボランティアファイヤーマン）「自分たちの地域は自分たちで守る」を基本理念に活動している団体で、地域の若者や青年らによって組織されるボランティア団体です。今月は、皆さんの身近で活躍する消防団についてご紹介します。

その起源は古く、江戸時代の町火消を祖に、明治時代以降、様々な変遷を経て、昭和26年にほぼ現在の形となり、

鏡石町消防団各分団担当地域図



※()は主な担当地域

全国の市町村に設置が義務づけられています。町の消防団も明治初期に組織され、当時は鏡石、高久田、仁井田、笠石、久来石、成田の6つの組で組織されていました。現在は、町を9つの地域に分け（地図参照）、それぞれの管轄を分団という単位で担当しています。

主な活動として、平常時は、火災予防活動や機械器具の点検、その他、消防技術の向上を図るため、毎年、放水技術の競技大会を実施しており、この「ポンプ操法大会」は全国大会まで行われる正式な競技種目となっています。そして、いざ有事の際は、消火活動や防災活動に出動します。出動の際は、危険な現場での活動となるため、その身分は保証されており、各種保険や出動に際しての若干の手当も支給されます。

また、地域の同年代の若者らが集まるため、地域の仲間づくりにも役立っています。



9分団長 江幡陽介さん(右)、副分団長(前分団長) 村上諭司さん(左)

「地震が起きてすぐ思い浮かんだのは、断水で水が出なくなるだろうから、火事になったら大変だという事でした。すぐに動ける団員で、地元約200世帯のガスの元栓の確認をしてまわりました。幸い火事は起きませんでした。活動を通して感じたのは、活動を通して感じたのは、区との協力体制の大切さです。炊き出しをしていただいたり、被災者の情報を共有したりと様々な面でお世話になりました。」

今回の震災の活動で多くの地元の方々と触れ合うことができ、消防団についての理解も深めていただいたのではないかと思います。9分団管轄(旭町地内)には多くの若い方もいらつしやると思うので、ぜひ団に入っていたらいいと思います。一緒に地域を盛り上げていきたいと思います。」



3分団員(前分団長) 奈須昌彦さん

「震災当日は、ポンプ車庫が壊れてしまい、動かせない状況だったので、みんなで手分けして自転車で地域を見回りましたが、その被害の大きさは愕然としました。その後も、足を使って情報を集め、また、各区長さんから高齢独居世帯の情報をもらったりにして、がれきの撤去をしたりました。」

とても個人や分団だけでは活動できませんでしたが、みんなの力や地域の皆さんの協力のおかげだと思います。活動していて、お年寄りなどから「ありがとう」と声をかけてもらい、とても励みになりました。また、家族と職場の理解がなければとても続けられませんでした、感謝しています。」

今は団員の数が足りないのですが、分団長を退任後再び団員として団に残っています。今後も出来る範囲で協力していきたいと思っています。」

災害の現場で

消防団にとって今回の震災は、これまで経験したことのない規模での災害であり、当初は手探り状態での活動でしたが、給水作業の補助や被害状況確認、がれきの撤去、防火犯のための特別夜警など、様々な方面で活動を行いました。

活動にあたった団員も自宅や職場が被災している中での出動でしたので、お互いが協力しながら約1週間にかたつて活動を続けました。

また、春先で火事の起きやすい時期も重なり、建物火災や野火火災が連続で発生しその対応に追われました。



▲地震直後から地元地域の被害状況の調査を行いました



▲給水作業では、作業の補助や広報などの活動を行いました

あなたも消防団に入団してみませんか

現在、消防団では団員不足という大きな問題に直面しています。普段の火事の現場でも、時間帯によっては、団員が少ないため、出動に支障をきたすケースもあり、団員確保が急務となっています。

分団には地域規模に合わせて団員定数を定めていますが、ほとんどの分団で定数に届いていない状況です(表1)。

消防団では、地域の皆さんに参加してもらいやすい環境を作ろうと、団行事の簡略化、行政区との連携強化、また、家庭や仕事の事情に合わせて参加できるように配慮して活動するなどの取り組みを行っています。

消防団は地域防災の要です。地域みんなの力を合わせて安心して暮らせるまちづくりをすすみましょう。

消防団に興味のある方はぜひお問い合わせください。

表1

	定数	現数
1分団	25	19
2分団	30	30
3分団	21	19
4分団	20	17
5分団	35	30
6分団	17	16
7分団	18	13
8分団	18	11
9分団	17	11

◎消防団についての問合せ先
総務課 62-2111



大河原正雄鏡石町消防団長

「まず第一に、震災で大きなけがや命を亡くした方がいなかったことが不幸中の幸いです。今更には、これまでも団としても経験のない災害だっただけに当初は戸惑いながらの活動でした。それでも震災直後から被害状況の確認やがれきの撤去作業の補助、特別警戒の実施など、日ごろの訓練の成果を十分発揮し、組織的な支援活動ができたのではないかと考えています。また、同時期に建物火災や野火火災が発生するなど、気の抜けない時期が続きましたが、団員にあっては、自らの家や職場が被災している状況にもかかわらず、団活動へ協力してもらい感謝しています。今回の震災では、団としてはもちろんですが、地元地域

の皆さんとの連携を日頃から図っていくことの大事さを感じました。それと同時に、地元の方々の期待も強く感じられ、今後の活動の励みになりました。」

現在、団員の慢性的な不足により、多くの分団においては、必要最小限の人数での活動を行っている状況です。団としても団員の定数確保のために、勧誘活動や活動内容の見直しなどを進めています。未だ定員に届いていないのが現状です。

働きながら活動することや日頃どういった活動をするのかといった不安もあるかと思いますが、消防団活動は地域の仲間とともに活動する楽しさと住民の安全を守るという達成感を感じられると思います。また、仕事や家庭の事情に合わせた活動ができるよう十分配慮しています。

消防団としては、地域の安全安心のために、助け合いの精神を持って責任ある活動をしていきたいと考えているので、地元の方々の理解と協力をお願いします。」